

武教全書口訣

侍用武功

九

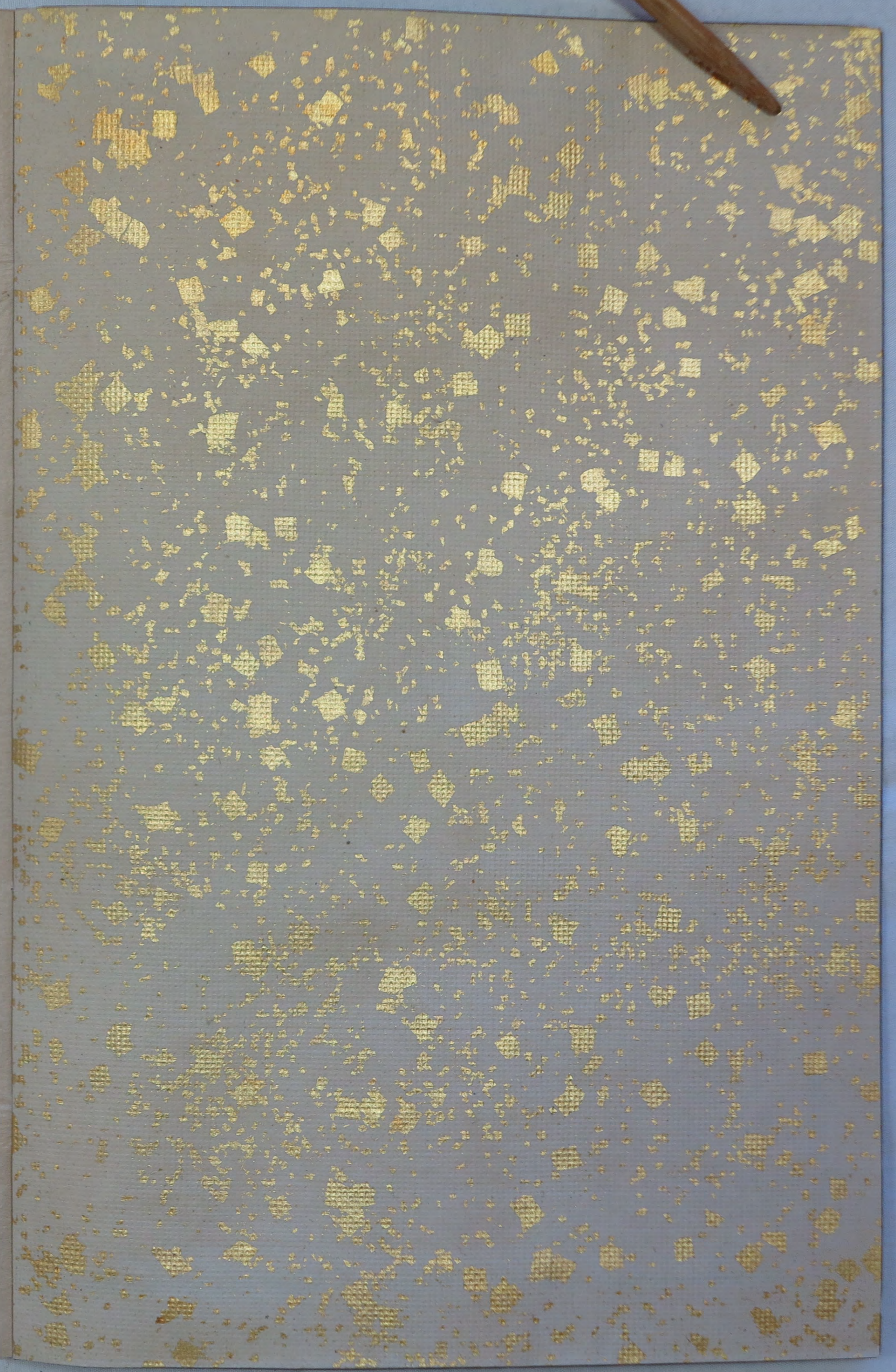
武教全書	
部門	七一
番號	六
冊數	二八



武教全書口訣

侍用武功

此侍用字八廿八口少成八  
 一人已ノ武士ノ用心也士ノ字  
 至將士三股ノ上ニ埋夕リテ用  
 也此段ノ小身ノ侍一人一已ノ  
 五凡武功ヲ女ノ二八ニ此字ヲ  
 小身ノ侍心掛ノ武士ノ侍心掛  
 一儀不儀志忘之事





武教全書口訣

△侍用武功

此侍用武功之口訣也

此侍ノ字ハサ△口ヲ用ル

一人一己ノ武士ニ用ル字

ハ主將士三段ノ上ニ用ル字

也此段ハ小身ノ侍一人一己有備ニ用

子ル武功ヲ云スニ此字ヲ用ル也

○小身之侍心掛ノ武士可有心得之事

一儀不儀忠不忠之事



義ハ武也宜ト注ノヨロシキニ叶フ  
知ヲ云武士タル者ノワサ行ヒニ此  
美ヲ離テハ不三モノ也不美ハ其裏也  
軍旅勒行急遠ノ間ニ當テ此武美ヲ不  
知熟セサル片ハ其應變アヤクナリ  
テ宜ヲ得テラサレモノ也然レハ武  
士タルモノ第一ノ本業也忠ハ主君ノ  
為ニヨク其中心ヲ尽メ己カ変ノ如ク  
万変ヲコシセツニスルヲ云不忠ハ其

裏也此忠美ノニツ余誠ニ出ル片  
自分成就セサルモノ也タトヘハ事ア  
ルニ臨テ戦ヲナシニ討死ヲトケテ忠  
美ニ成テ下リ又命ヲ全フテ忠美ナル  
場アリ然ルニ美心ナキ片死ハ其  
テ不仁私欲ヲヒカ長死ヲトケス死ス  
テシキ知ニテ思メ命ヲ失フテ不美  
不忠ノ名ヲトケテ古今多クテ武士  
タシモノ外忠美不心掛キ片敗モ忘レ

又修行ノ後初王不美不忠ノ各ヲ取サ  
ル如クスルノ第一ノ本業肝要ノ事也  
此章ヲ此篇ノ始ニ出シタルハ尤ノ教  
ケ条何レモ武ノ忠美ヲ尽サシテ為人業  
ナリ忠美ノ心掛ナキハ学テモ無益  
ナリ也故ニ此条ヲ卷頭ニ置テ其美ヲ  
シラシムルモノ也  
一目付処之事  
一目付処ハ尤ノ五ノ条也戰場ニ出テハ

死ヲ鵝毛ヨリ非モ輕シク高名ヲトク  
ト心カクルハ勇士ノ本意ナリトテ勝負  
ヲ不亦武功ヲ不知氏ハ必死ノ場ヲ不  
知カクハ主ノ為ニモナラズ身ノ働  
高名ニ非ズ空ク命ヲ失フ是匹夫ノ  
勇ニシテ不忠不美不忠ノ各ヲ取サ  
志アル士此取ヲ考ヘテ兵術ヲ且夫  
鍛錬ノ働ヲナシ其損徳ヲ考ヘテ目  
當ヲトリテ刃セク氏ハ歩シテ且夫

名ニナリテ死テモ至ノ用ニタナ名ヲ  
万代ニ朽サス是勇士ノ本意トスル如  
ノ道也其目安トシテ働ヘキ大要ヲ此  
ニ出セリ故ニ目付如ノト云也  
一 敵ヨリ先味方ヲ見合スル莫  
戦場ニテ忠美ヲナサント思フ人ハ我  
切ノ可カカリニ心カ付ユハ人ノ  
ヲ忘レ却テ人ニテクハアリ然ハ  
粉骨ヲ尽メ抜群ヲ切ヲナサント心掛

ル人ハ先我一午ノ内ニテ誰カ抜群メ  
譽ヲ心掛ルカト氣ヲ付見合セテ其人  
ニテ先トテ又如ク先ヲ越レシト情ヲ出  
ス成ハラクレヲ取スサノミニテキ働  
分ナキモ人也  
ニ 味方ノ内ニテ口ヲキク勇士ニシタシ  
△ 莫人ハ無敵ト云フ人ハ在モ一審  
口ヲキク勇士トハ味方ノ内ニテ武篇  
場教了ル士也我慢血氣ヲヤマテケ様

一人ヲ親ニ内訟ヲトケ万事存寄ヲ受  
テ働キナス片ハ仕損スルヲナキモノ  
也或ハ又撰功ノ片モ右ノ人我ヲ一番  
ニ論スルユヘ早ク上聞ニ達スルモノ  
也如此心カケナクハ若士ハ高名ヲナ  
スヲ難シ  
三 甲吹返指物ノユルキ様ニ目ヲ付ル莫  
款ノ軍勢ヲミルニ差物ユルカス吹返  
不動ノシヨ口ヲ傾ケテ戦ヲ持テ居是

誠ニ陽ノ款也又備夕リト云片士卒騒  
動ノ小旌差物トト散乱シ吹返ウコキ  
テ士卒ノ心一定也片是ヲ浮氣ヲ備  
ト云此知ヲ目ヲ付陽ヲカケテ浮氣ヲ  
討心得ヲナスヘ然ル片ハ夕トハ  
兵一人ノ鎗ニテモ其備引立ルヲ下生是  
我一人ノ武功ニテ全ク勝利ヲナシテ  
ルト云ニ成シテ卒給モ其備引立ル  
四 鎗色ヲ見ル莫同長短ノ目付之莫

鎗ノホサキ揃ヒ前下リニ見ユル是実  
ノ場也是ヲ鎗色ノ能ト云鎗先揃ハス  
雜乱シ或ハカタキ杯ノ居ル是虚ノ場  
ナリ此所ニ目ヲ付テ実ヲサケテ虚ヲ  
討ヘシ然ル氏ハ其功全カルヘシ同長  
短ハ敵ノ備ヲミルニ總長ノ鎗ヲ揃ヘ  
テ備ヘタルハ是則長柄ノ備也長短  
ハハ小居或ハ長刀ノ文字ノ類ニシリ  
テ三ノ子ル備ハ是武士ノ備也サテ存

長柄ノ備全カ未リテハ力ホト働テ

夫高各ト卒ヘカラス万一討死トト

ケタル氏ハ死ト云ハ所是匹夫ノ備

ナレハ也故ニ此礼ニ目ヲ付テ力ク

士ノ備ニカハリテ働ク如ク心掛ヘシ

五盛衰ヲ知ル莫クハ本ノ備ナシ

兵法ニ朝ノ氣ハ銃ニ登ノ氣ハ墮暮ノ

氣ハ歸ト云リ士卒ニモ大將ニモ其外

万事ニ此氣朝昼暮了其夕ト云ハ本キ



ヲ七盛ナル備ヲ朝ノ氣ト云其備等ニ  
カラナルハ此ヲ昼ノ氣ト云引色ニ  
ミユル備ヲ暮ノ氣ト云ナリ此盛ナル  
兵ハカ、リテイカホト働テモ印ナシ  
難シ然ハ此ハ此ヲミツモリテ其盛ナル  
ヲ七カハ衰ノ揚ヲミテ討ハシ銃氣ヲ  
サケテ體氣ヲ討ハ心得所要也夫然  
一 矢道ヲ知ル事ハ其也夫然  
一 敵ヨリ矣玉ノ来ルハ此ヲ矢道ト云亦テ

来ル通リハ味方ノ諸勢ノ群ヲ居ルハ  
一 執ハ来ルモノ之故ハ弓鉄ヲ放スニハ一  
人ヲ子ヲヒテハ弁又モノ也トカク大  
勢ノ氏シタル中ハ弁カクルモノ也敵  
ヨリ来ルモノ味方ヨリ押カ、ルモノ  
此矢道ヲ知ル考テ群ヲ居ヲハナシテ  
一 心ニ四間モ安ナレテ服ヲ押心得ニ又  
一 然ルハ武者フカハ服ヨリ能ク  
一 射テ敵ノ矢玉ハ来ラヌモノ也

ヲ七盛ナル者又明ノ氣ト云々

一 場ヲ離レタル者

是ハ矢道ヲ知上ノ心得ヲ云右ノ通夫  
道ヲ知テ是ヲヨケテ押行ト云トモ其  
備ヲ遠ク其場ヲ離レテ行氏ハ臆病者  
トナリ不覺ヲ取リテ此処ヲ思慮メ  
矢道ヲヨクル氏其備ヲ遠オカリ場ヲ  
ハナレサル如クスヘシト云々  
一時ヲ知ル事  
我働ヲナスヘキ取ヲ知テ也諸勢ノ働

久氏一同ニ働氏ハ功少折込ニナリ  
之働アリ詮ナシ然レ共此氏ハ身柄ヲ  
安養ニ諸勢ノ働キ勞レテ久工ム取ヲ  
考ヘテ我出テ粉骨ヲ尽テ働ヘシナ  
レハ一際目立テ能ミエル也是ヲ取ヲ  
知ト云也

一 心之勝仕取之負之兼

是武士タル者一ツ心得也心ノ勝ト  
云今我手ヲ刀ヲ成サレ氏手柄ナシ

了アルヲ云々トハ敵ノ備只今鎗ノ  
入シホトミキル氏我鎗ヲ入ルヲナラ  
カル氏ハ人ヲ教氣ヲ付テ鎗ヲ入シメ  
接ノ如ク敵ヲ切崩ス氏ハ我鎗ヲ入ス  
ノ切ハ我一人ニ歸スルノ類ヲ云ナリ  
仕方ノ負トハ心ハ億セオレ氏思慮少  
ク致方宜カラサル子ヘ方久ヒタルニ  
成ヲ云々トハ二人夜廻リヲナスニ  
風雨ハケシキ氏一人ハ此風雨ニハ敵

念来ルハカラスト休息ノ暗間ヲ待一  
小人ハ夜廻リヲナス氏ニ敵ハ夜込杯入  
式テ高名ヲトスル氏ハ右得廻ラサル者  
ハ仕方宜カラサル子ハ思ハス臆病  
ノ名ヲ取カ如キ類ヲ云此カカヒラ會  
得メ心ハ勝ヲナサシト心掛テ仕方  
ハ負カセカルト肝要也

一 九字之事  
九字ハ臨兵闘者皆陣列在前ノ文字也

其字數九ツアルユヘニ九字ト云是佛  
語也訓ヨミニハ兵ニノソシテ闘フ者  
ハ皆陣列ノス、ムニアリトヨム也此  
意武士タル者ノ戰場ニ出ル第一ノ志  
也然レハ此文武道ニ叶ヒタル文字ナ  
レハ是ヲ取テ教トセリ畢竟武士タル  
者此意ヲ片取モ忘レス戰場ニテハ尚  
以心掛ハキ丁也且戦ニテハ浮屠氏ノ  
念佛ノ如ク常此文ヲ口中ニ唱フハ

ト云リ忘ルキ丁ナリ其意ナリ  
○小身之士武功之事武成ノ如ク  
一武者修行之事ト修メテ其位方所

心カケノ武士若年人收我刀勇氣ヲ子  
一 天リ修行ノ為ニ諸國ヲ往来ノ国々ノ風  
俗地理弓矢ノ格ヲ示シテ或ハ良  
將人牛ニ加ハリ我働ヲ己ノ口ニ為  
ニ備ハシテ力リ武ヲ子ニ修行スルノ  
類ヲ云或ハ浪人ノ士アリ付人為ニ諸

一 国ヲ回歴ノ身上ヲカセクヲモ云也又  
大身ノ者ニモ弱年ノ收世ノコトハリ  
ヲ知シタメニ身ヲ忍テ国々ヲ修行シ  
回リ玉フヲモ武者修行ト云ナリ  
一 死ヲ常ニ心ニ當ル事

武士タル者ハ常ニ死ヲ心ニ計ル一  
為本嗜心掛也イカヤウノ事アリテカ何  
少收ハ知ラズ必ス死ナテ叶ハ又場へ行  
ニシキニアラサレハ常ニ其覚悟ヲナ

スヘシ生レテハ又トカク死ルナアル  
ナラ會得スヘシ不然ハ夏ニ臨テ迷ヒ  
出来或ハ命ヲ惜シ或ハムサキ仕方ナ  
トアリテ不覺ヲ取ナリ然レハ懐中  
ナトヘモ武士ノ鑑トモ成ヘキ者ヲ入  
置ヘシ死後ニ名ヲアクル事アリ口ケ  
ナキ物ヲハ入置ヘカラス入置成ハ氣  
ナカニリニナリテ働カレス思ハス臆シ  
死ノ後モ汚名ヲ残スモノ也此心得所

要十リ

一 勝負之氣ヲ常ニ心ニ置事付養勇之事

常住坐臥ニ勝負氣ヲ心ニ忘ルヘカラ

ス変アラハ如此ト覚悟ノ少ノ間モ緩

セ油断ヲナスヘカラス是又第一所要

ナリイカホト心安キ者モ心底ニイカ

ナル異心ヲ隠シ居モ計ルヘカラス又

ハ常温和ノ人モ何暇乱心ヲスニシキ

モノニモ非ス然ルニ此心カケナク油

断ヲル成ハ思カレ不覺ヲ取ナリナ

断大敵ト為諺忘ルヘカラス然養勇トハ

武勇ヲ子ヲ習得ナリ也武士必ル者勇

氣ナキ成テ成就スルハ難シ大

テイシラ又変ハヤフニ馴又ナリハ氣

ツカフハ人情也養フトハソレヨリハ

テ鞠ル也常ニ武藝ヲ心カケ武妻ヲ忘

レサル成ハ自然ト勇氣出来ル也旋藝

ナリトナリケル成ハ勝負氣ヲ忘ルニ

ノ也タトヘハイカナル難美ノ場也  
テモソレヲ忍テ信美ヲ以テ押テ只様  
其事ニナル、敗ハ氣ツカヒ危ニモ次  
第二ウセテ平生ノ如ニナルモノ也是  
ヲ勇ヲ養ト云也

一 證取ノ取様同證取ノ立様之事

戰場ニテ敵ヲ討首ヲ取片ハ必ス味方  
ハ武士ヲ證取ニ取モ人也然ラサレハ  
莫ニヨリウ合ヒ首木止仕タルニナル

モ也其取ヤカ不我ヨハ先陣ノ者初  
取ヘカラス後陣ノ者頼ムヘシ尤子  
人ニ限ラヌ三四人モ取ヘキ止ヘハ若  
ク頼タル證取方ニ討死ヲ遂又此片  
證取トシニナル也立カテハ人下リテ  
入證人ニ立カレヨト頼片ハ成ホト御働  
ノ様子ニノアタリ見申タレハ身柄討  
死ヲ不遂ハ證人ニ立可申服ヘモ頼  
玉合ト詞ヲ殘シ答ヌヘキ車身不然又

其意ヲ得ト云クハ其日ノ軍ニハ討死  
ノ心掛ハ無之ヲクレタルニ十人  
ナリト云クハ其日ノ軍ニハ討死  
一人ニ言葉ノ掛ヤウ人ノ問詰答之事  
人ニ言葉ヲカクルニハ捨テ臆ニタル  
言葉ヲ云ヘカラストハ大将巡見  
人氏款ヨリ又矢玉ノ輕キ方ヘツレ  
カニト思フ其方懸ルハイツレ  
又方款合近夕候不志下御越御ラキア

レホトトハ詞ノツレ行心得也或ハ又詞  
ヲカクルニ先ニアル人ニ跡ヨリ詞ヲ  
カケ又モノ也棄越テ詞ヲカクハ故  
ハアトヨリ詞ヲカケテ後棄越タルト  
云テモ撰功ノ片我アトヨリ言葉ヲカ  
ケタルトイハレテ越タルト云セシ立  
難キ也人ノ詞ヲカケタル片詰答ノ仕  
ヤウハ或ハ跡ヨリ声ヲカケタル片立  
ト下リテ答ナルモノ也行々答ヘテ後



ヨリハ兼ユスヘキト思ヒテ夕ハサ  
声ヲカケルモノナレハ也

一 声ヲ夕ハフ事

夕ハフトハ閑東詞ニテ惜ト云々也  
惣乗或ハ大合戦十トノ敗互ニ声ヲア  
クルトアリ其敗諸勢ノ一同ニ声ヲ立  
ルルハ我ハ声ヲ不立夕ハフトテ居諸勢  
ノ芳レ切テ声ノ夕ユミタルハ我声ヲ  
立或ハ要ノ詞トヲツカフヘシ然ル

一 大凡ハ一際目ニ立テ働見事ニユルモ  
ナナレハ此心得有ヘシハ

一 若壯老三段之働分別之事

若キハ三十ヨリ内ヲ云血氣ノ衰ホカ  
ニナル敗篤ナレハ老年ノ者ノ存ヲ  
ヲ請テ働心得ニスヘシ血氣ノ衰ハ  
ヤレハ死ニシキルニテモ折死ヲ遂ル  
ヤクハ下アリテ宜シカラサル也壯ハ  
三十ヨリ五十迄ヲ云万事練テ盛ナレ

片誠ニ勤ナカリ也然レハ老若引立  
テ働心得アルヘシ老ハ五十以上ヲ云  
也心ハ勇ミテモ年足ハ壯年ノヤウニ  
ハ叶難シ然レハ自身ハ働ヲナサズ  
若年ノ者ニ氣ヲ付テ働カセル心得在  
ルシ此三段ハ各我年ヲ益カリ其力ヲ  
考ヘテ相應ル各働年分別ヲナシテ  
カセクヘシカ野合ハ心ハ我年ヲ  
一 太刀拵心得同組拵之心得之事云々然レ

太刀拵ヲナスニ六具ヲカク夕ノ先敵  
突切ニクキモ柔也然レハ透間ヲミテ  
以テ力ヲ心是心得也組拵ハ敵ヲ以テ  
以テ我体ヲスヘテ敵ヲ下ヘ引スユル心  
得ニスヘシ敵力其刃之由テ造佐ナ  
ク引カヘサズモ力也ニ七ナシトテ  
レスハ上帯ニテモナシテモトテ  
一 馬合テ右ノ心得云々ハ四方敵ニ我ト

ラレタル片ハ張合ハ却テ引倒サレハ  
モノナレハ尤ノ年ニテ我カニヒサシ  
ヲトリタル款ノ年ヲトラヘ引ニシタ  
カヒ行ヘシサテ其内ニ馬年指接テ款  
ヲ突ヘキ也

一 馬上ニテ鎗合心得同組并心得之事

馬上ノ鎗合ハ鎗ヲ体ニシテ腰ニテ  
突ヘシ年ニテ突ニトスル片尙万一突

一 太バツスレキハアニ米テ落馬スル下アリ

サテ鎗ツホハ款少シヤリスコシ見返  
リテユルキノ系ヲ目當ニツクヘシ人

ニ當ラサレキハ必馬ニ立モ人ナリ組

一 併并ハ馬上ニテ組合テハ我ハ鞍ヲヨク

シキ付テ体ノ早ク離レ又ヤウニニ引  
受テ即敗鎗ヲケタテ乗出シ款ヲ引落  
ス心得ニスヘシ落重リタル片鞍ノ早

一 馬ク離レタル方必ス下ニナルモノ也

一 馬上ニテ歩行ハ款ト仕合心得之事ニ自

一 イカホト達者ニテモ歩行立ホトニ自  
由ノ働ハ成確シ然レハ先敵打シヨリ  
彼ヲ馬ニテ棄タテカケナヤニシツカ  
ラカシ棄タラス如クシテ後ニ打心得  
ナリ

一 歩行立馬上ノ敵ト仕合心得之事

馬上ノ敵ニ出合タル時ニ敵ノカケ廻  
ルニ隨テ此方モカケ廻テ戦フハ必  
ズ歩行立ノ方早ク勞レテ討ルニモ人

也然レハ歩行立分テ兵ノ働カズ敵馬  
ヲ棄カケ来ラハコトテ馬ヲ切ヘシ是  
心得也

一 備場ニテ鎗持様之事

備場ニテハ必石突ヲ以キ直ニ持  
テ是勝ヲ持ノ道理也横タヘテ持  
テハ力ヲス是虚ニ又勝ヲ失フハ

一 馬上ニテ鎗ノ納様之事

同木立ハ鎗持様  
之事

一 納ヤウハ鎗ヲ右ノカ草ノ間へ前ヨリ  
サシ込鎗ノ杏込へ石突ヲ三大指ニテ  
ハサミ鎗ヲフミ出シテ立テ置也横ニ  
スル片ハ鎗ヲアトへフミナカセハ馬  
ノヒラ看ニ横ニツキホサキ款ニムク  
也又云カリソメノ片ハアヲリヲアケ  
テ間へ鎗ヲハサミ置下人ツ、キタル  
片渡ス丁モアリ木立ヲ往來スルニハ  
ヤリノシホ首ヲ取テ引テ行へキナリ

カツキテモ横タへテモ林本ニサシ込  
リ方不自由ナルモ也カハ端ハ長直  
一 馬上ニテ太刀拔様之事同太打心得ノ事  
太刀ヲ又久ニ午網ノ内ヨリ拔氏ハ午  
シヲ切或ハ午網ヲ切丁アリ故ニ左ニテ  
一 馬ヲ網ヲ取右ノ下へ押テ其上ヨリ右ノ  
半ヲ引シテ抜个キ也太刀折ヲスルニ  
ハ棄違サニ一太刀ヲ以テ打心得ニ  
ハ身ノ度ニ太刀教ヲ切へカテスホカ

ク先敵ニキセテ此方ニハ請流メ跡ヲ  
切ヘシ人ヲ切シヨリハ馬ヲ切牛綱ヲ  
切心得宜キナリ

一馬上ノ敵ヘ付方之事同敗軍ノ敵追心得  
之事

一敵太刀ヲ持ハ左方ヘ付ヘシ鎗ヲ持

一馬又ル敵ナラハ右ヘ付ヘキ也是敵ノ為

ニ逆ナル上ヘ也敵ヲ追成ハ敵ノ身通

リヲヨケテ進ミ敵ト並ヌ心ニ追ヘシ

一敵ノ跡ヘ付テ追成ハ敵速ニ返ストム

一カ以ヒテヲクレヲ取テ取ル也

一進退凡ニ本道脛道ノ心得之事

一進退凡ニ本道ヲ往来スヘシ脛道ヲ往

来スル凡ニ不覺ヲ取テアリ又廣野十

十ニテ道敵ノ了ル如クトカク往来ス

一列ヘシ見渡近キト云テ道ニテナキ如ク

一行成ハ先ニテ川岸ナドノ類ニツカユ

一凡ルナリテ大ニ難ヌスルナリ有モノ也

一 父子知ヲ替ル事

父子一陣ニ居ルヘカラス一死ニアル  
氏ハ恩愛ニヒカレテ不思臆氣トト出  
馬ル丁了リ或ハ父并死スル片ハ子トシ  
テハ生テ居ラレズ無益ノ死ヲ遂或ハ  
子討死スルヲミテハ父トシテ止丁ヲ  
得ズ無理ノ戦ヲナシテ却テ敗レヲ取  
丁有モ人也故ニ父子一死ニララス所  
ヲカヘテ居リ又押行ヘキ可也

一 組頭大将討死之心得之事

士大将討死ノ敗組頭夕ル人ノ心得ノ

事也大将討死ノ氏ハ其組下ノ士ナハ

早キ崩ル事ナラズ也士大将ニナリ

代リテ能下知ヲナシ其一年ノ士卒分

崩シ乱レサル如クナスヘシ是心得也

一 引取知云テ人ヲ先立ル事

進ム氏ハ人ヲ先立ル心掛ハ勿論也引

取氏ハ又人ヲ先立テ我ハ跡ヲ引退

へキ也 款追打片ハ先午ト成也 是ヲ退  
口ノ先陣ト云高名ナリ

一 早帯之仕様之事

上帯ヲ早クスル仕様也ニツニメ引  
カシワカ引カケテ結フ也

一 早具足着様之事 同夜中暗キ処ニテ着様

之事

ツリ具足ト云テ陣屋へ縄ヲハシ

一 助 段カトヲツリ置急ハ取半下ヨリカワ

キ上テ着スヘキ也 第何夜并杯本間

相スヘテ急ナルヲカアル下キ間相泉

款了ル片ハ具足ヲハヌクヘカテス夜

卧氏甲ハカリヌキソレ又枕ニ対子ル

へシ是ヨリ早キ着ヤウハナシ捻ノ早

着ヲ用ルヤウニ油断ノ軍ニ勝入理全

一 端夕アズカラ又考ル合シ暗夜ニ着ス

ルニ台外不持出テ着スルカ能也 内ヨ

一 款 非ハ廣ク雲スカシニテ明キ云ハナリ



俣屋ノ内ニテハセニク互ニ指物十ト  
スレ合テ不宜モノ也

一 款之看取様之事同捕付首袋之事

款ヲ折タリ片アハテ、首ヲ取ヘカラ  
ス款起上リテ不覺ヲ取タル丁ニ、有  
リナレハ先ニ太刀モ三太刀モ切テ置  
其後シツカニ看ヲカクヘギ也切テ分  
切ニクキモノナレハ下ヨリカハテ取  
モノ也カキヤウ前へ引切成ルニ

テケカスルモノ也逆半ニ刀ヲ持半ヲ  
フセテ外へ切先ノ向ヤウニハ子切

大也捕付ハ馬ノ右ノ脇半ヲ云首袋ハ布

奥サヲシテ用込ニテ深袋ニスヘシ首ヲ

○小取テハ此袋ニ入捕付へ結付ヘシ此袋

ヲ持ニハアヲリノ下へ付テ見へ又ヤ

ウニメ置ヨシトスカラ袋ヲ付テハ見

若シキモノ也

一 款ニ鎗付ヤウ之事



一 款ニ鎗付タル氏ハ即敗石突ヲアケテ  
向ヘツキ返スモノ也油断ノ居ル氏ハ  
款鎗ノ柄ヲコイテ来テ不覺ヲ取リテ  
ルモノ也可心得丁也

○小身之侍武具心得之事

一 度量ヲ知ル事武具ハ輕キヲ用ヒ重具足  
大差物等遠慮之事  
度量ハハカサカサカハトヨム是ヲ知ル  
ハ其身ノ分々ヲ考ヘ余カリ我器量ヲ

シリテ我身相應ノ覺悟ヲ仕ヘキ丁也  
武具ヲ作ルニモ我分量ヲハカサカサカ  
クハ我力ヲ用ヒ輕キヲ用ヒ心得宜  
キ也分ニスキテ重キ鎧大ナル指物杯  
ハ遠慮ヲナシ用捨スヘシ見掛ハ威勢  
アレ氏働不自由ニメ長陣ナトニハ少  
業モ叶ヒ難クナリテ取回シキナク  
ナレヲ取リテ人々見知タル指物  
ナト中途ニテ替ナトスル丁不貪鑿ノ

至り武士ノ耻ル処ナリ

一 忍ノ緒ノ梅様付様同留様之事

梅マウハモメシ布晒ノ類ヲ用テ半幅

八尺ニメ尻風折ニタミ左右ヲ又ヒ

小クミテ用ル也付マウハ三乳付ニス

度ル也前ヨリ左右へ引通シ後ノ乳へ兩

大方ヲ通シ引千カ合テ付ル也被リヤウ

先前人緒ノ輪ヲ取トカヒノ上へ引カ

ケサテ後口外引千カ合タル緒ヲシメ

テ前ノ緒ニカ合テクヒノ方へ引出

一 引シ耳ノ後口ニテニハリノ緒へカケ前

へ取テ結フ也留様左ノ眼ニテ留へシ

右ノ方ニテ留レハ弓ヲ引カハリ

ルナリ

一 類當遠慮之事同ス子當用捨之事

ホウ當ヲシテハ温戦ナトスル氏ハ息

コモリテ宜シカラサル也又下知ヲナ

ス人ナトハ詞カ評ニ用ハサルモ人也

故ニ遠慮ヲナシテヨキ也尤用ルルハ  
 様頼ヲヨシトス鼻ヲカケハツシニシ  
 タルヲ云也ス子當ハ足ヲナカレタル  
 氏ノ為ニハ用タルカ能也沼川十トヲ  
 渡ルニハ宜シカラス或ハ遠路十トヲ  
 行ニモ膝ヲツメテアシハ此ルヲ勘弁  
 ヲ用捨ヲナスヘシ式ハ難ク不習ス  
 一 指物堅ノ様之事  
 堅メヤウハ小細引ヲ以テ差物ヲ結ビ

其緒既前へトナリテ半帯ヲ留置ル是  
 公鞅ヲナシ或ハ高クヨリ飛下リ或ハ  
 尾ナトヲ用ス又又各出テ落シ或ハ款  
 二トラレトメ不覺ヲ取可アル故也  
 能ク堅メ落又如クスル也ハ  
 一 腰當仕様之事  
 コシ當分大小ヲカキ付ルモ草  
 子以テ作ル也委シク紙祿既半長  
 一 下着モ引心得之事同常之小袖用様之

一 事

下着ハ布晒ヲ用ユヘシ絹類ハ身ニモ  
クレテ悪シ不可用其恰好ハ大要常服  
之通ニシ袖ヲソキ袖ニスヘシ股引ハ  
襖モ引ト云ヲ用ユキヤハンヲ別ニ  
メ用ユ沼川十トヲ渡ニ自由ヨキ也常  
小袖ヲ用ルニハ其終着スル所ハ身  
指ノ丈ケ長ク宜シカラス故テ着スル所  
襟ヲ頭上ニ被リテ帯ヲニ頭上襟ヲ身

ワセハ長ク膝切ニナリテ恰好ヨシ其  
上ヨシノニワリニ夕ル身ヲ  
モイタメスオテ玉留リニ成テヨ口シ  
キ也袖ハ裡ヲ以肩先へ留テモ又タス  
キヲ掛テモヨキ也  
一 下着ハ薄ク上着ヲ重クスル事

戰場ニテ具足下ニ下着ヲ重クスルト  
働自由ナラズ然ハ下着ヲハ薄クノ寒  
氣ノ所ハ綿ヲ沢山ニ入タル羽織ヲ調

テ是ヲ鏡ノ上ニ着スルカヨキ也無紋  
ニメ淺黄深十トニメ用ヘシ要アル片  
ハ又キ捨テ出ルナリ紋アレハ周章テ  
一 捨置タルト批判アリテアシハ  
一 下帯ノ梅様上帯ノ仕様之事

世ニ越中下帯ト云ヲ用エ布晒モノ  
ノ間ヨシ縮ハアシ、寒中十トハ下リ  
ヲ裕ニシタルモ宜シ九長五尺ホト前  
後ノ端ニ緒ヲ付テ前ノ寸カリノ緒ハ

ワリニメ首ニカケ是組合ノ片サカリ  
ヲ取留メシキ爲也後口ノヒモハ左右  
ヨリ前ニハサカリノ表ニテ結ヒ  
置也常ノ下帯ニテハ後ノ結ヒメ高ク  
テ宜シカラサル也上帯ハ是亦布晒ヲ  
用エ長サ一丈余タ、モテ左右ヲヌヒ  
久ハミテ用ル也凡一丈ニテハ三重廻  
斬リニ成也子ルキ系上ニテ結フハ  
シ是ニテ胴ヲ持テハ随分堅クシム

ルカヨキ也

一 陣刀取差拵寸法之事同鎗長短心得之度

大小ノ寸法ハ刀ハ二尺三寸ヨリ五寸

迄取差ハ一尺二寸ヨリ五寸迄ヲ善ト

ス常ノ大小ヲ用ヒテ上ニ皮ノヒキハ

又ヲカケ金物十ト金ハクニテ書テ宜

也世ニ鉄銅作り十トニシタルレ

鎗ニ當リ不直也鎗長キハ二間短キハ

九尺柄宜キ也何レモ我身ノ力量ニ應

宜用ユヘシトカクハ余リ長キハ損多

クアハルモ人ナレハ好今ハカラス是凡

一 陣羽織具足羽織之事世ノ羽織ハ用

陣羽織軍中人礼服也治世人上下人

大意也鎗ヲ着ルハニ常服ノ上ニ着ス

ハ他所余性来スルハ亦ハ和談ノ使者

ヲ勅ルハ又大將ノ前ヘ出ルハ類ニ

着用スル也具足羽織ハ陣羽織ニ寸幅

着用スル也具足羽織ハ陣羽織ニ寸幅

太ク作り具足ノ上ニ着スルモノ也  
是ヲ着スルハ差物ヲサスニ不及モノ也  
近世ハ是ヲ用ルヲ稀也

○小身之侍陣中へ札持可仕道具心得之度

一 矢立同料紙之事

一 矢立ハ墨筆ヲ入ル器也矢立ト云名ハ

一 軒籠ヲ畧セル故ト云リ竹ヲ以作り用竹

ノ節ヲ一ツコソテ短ク切蓋ヲ入是ニ

墨ヲ入小キ竹ヲ付ソレテ筆ヲ入

トカク陣中ノ具ハ手輕キヲ以テ善ト

ス落シタル片ニ真調ハカユルヲ安ニ此

矢立ハ萬事ニ入用ノモノトハ所持

一 木仕ルハ料紙ハ鏝ノ引合セ或ハ下散

一 内ニ入置ヘシ

一 腰桶ヨシツト打カ不入

一 是ハ兵糧ノ類ヲ入ル器也又シ桶ハ桐

一 布ノ木ヲ以テ扇ノ地紙取ニシタルカ能

一 也コシツトハウラツトノ也是ハ昼



食ヲ入コシニツクヘシキカヘハ子シ  
ツクサノ如クシテ中ヲシキリ左右ニ  
口ヲアケ一方ヘハ金銀ヲ入一方ヘハ  
米或ハ兵糧九十ト入テ帯ニメ所持ス  
凡ル具也

一 水入筒水ク水吞  
水入筒ハ世ニ是アル水筒ノ一也木竹  
ニテ可作口ヲ真中ニアケテソレヘ底  
迄トク小キ管ヲカシテ置ヘシガテ

水ニテモ酒ニテモ入テ持也吞氏ハ右  
ノククヲ引出シククク口ヨリ吞ナリ  
水クミハ小キヒシマク也前立物杯ニ  
調置ヘシ水吞ハアハセ紙ヲ凡ク切テ  
折テ四ツニタハミ置用ル氏ハ折目ヲ  
引キカヘテククク吞也折目一ツ午  
カユレハクホク成也  
一 布ヲ持ヘシ万ニ用多シ  
軍中ヘハ布ヲ多ク持テ宜キ也上帯下

帶或ハ小旗差物弓鉄炮等ノ腕貫十ト

一 亦ヲ調其外万変ニ入用多シ

一 皮ノキレ小細引カキクハシ

一 皮ノ切ハ武具ノ損シタル片修補スル

一 二入用也小細引ノ左右ニカキトクハ

一 ントヲ付テ持ヘシ楯ヲ兼陰阻ヲ越ル

一 片或ハ陣屋ノニハリニハリ淡紙ヲツ

一 リテ風雨ヲ防キ又ハ營中具足ヲツリ

一 置又ハ釣籠繩ニ用ル類入用甚多ク自

由ヨキモハナナリ由ヨキモハナナリ

一 火拵ホク千付竹筒火止ス

一 火打ハスリ火打ヨシ金ヲ厚クヨクキ

一 タヒテヨシ拵片ハ音セスメヨシホク

一 千ハカシヤノ類ヨシ何ニテモ火ノ早

一 ク付モノヨシ付竹ハ合セ付竹千シ持

一 ホリ風雨ニ消又モノ也跡先ニイホウ

一 付ルカヨシ筒火ハ生火入ノナナリ

一 鼻紙同手拭三尺手拭之事

一 紙ハ二三枚ツ、スコキテ上帯ニハサ  
ミテ持カヨシ或ハ鍔ノ金物ノアタル  
処々へハサミテ置へシ午拭ハ水ニヒ  
タシテ上帯ニハサミ置へシノトノヒ  
タル氏シホリノミ口中ヲウルヲス也  
三尺午拭ハサラシ布カヨシ腰當ノ上  
ヲシメテ大小ヲカタメルニ用ル也  
一 間縄什リ曲尺之事天ノ宮中具足ヲツリ  
間縄ハ下間ヲ折モノ也小キ葶縄ヲ一

間ツハ一テ結ヒ切テ瓦其間ホクニ  
持へル曲尺ハ長四五尺成ツルケテ鯨  
ノヒレヲ以テ作非常休々物也  
一 持合ヒ武ヲ心掛ル士ハ常モ是等ノ  
品ヲハ用意スル所ナリ  
一 薰陸ノ入タル合香付ル雄黄之夏  
クニ口クハ毒虫久ヲ以ルハ子念  
此入タル合香ヲ懐中スルカヨシ山野  
性来メ毒虫ノ難ナキ也雄黄モ又毒虫

ノヲソル、モノ也且不淨ヲハラウ物  
ナリ故ニ陣中ニテ不淨ノ嗅ア儿代鼻  
ニ又ルカヨキ也久シク惡臭ヲカキ忍  
フトアラヤミト云病ヲコルモノ也故  
ニ是ヲ用テ不淨ヲ拂フ也

一 口ヲシ同口ヲシカケノ事  
口ヲシハ口ヲヲ能ク打テ作也口ヲヲ  
竹ニハサテ本末ノ穴ニ付ヤウ  
折タルカヨキ也強クテ其止テ足ヲ痛

千又モノ也口ヲシカケノ底ノ十キ足  
袋ヲ用テ底ノ穴宜カラス常  
ニ云水カケノ具也

一 物又ハ針キリ鉄植小人ノキリ  
是等皆入用多キ物ニテ必可ル持ナリ

一 磁石剝限ヲ知道具  
千シマクハ方角ヲ知剝限ヲ知道具ハ  
時計漏刻水等ノ下也

一 妙藥之夏集虫 瘧乱ヲ息合養血留血

一 此類ノ藥 醫師ヨリ求メテ持ヘシ 艾ハ

キ 痲瘋藥 腫物 コセウ 艾 南天ノ

葉ノ 輕節 トシ 病

急病ヲ治シ 或ハ 手痲ヲ又クメル 類ヒ

尤平ノ 灸ニモ用テ入用多シ 澤山ニ持

ヘシコセウハ 寒暑ニウツ氣ヲ散ス 南

天ノ葉ハ 毒ヲ食シ 不淨ヲ除クモ今也

チカレニ フレタル 疾是ヲ用ヒテ 手水

ヲツカフ 平 輕節 旨ヨカトタル 疾折

チキテ 食スル 疾ハ 大ニ食 留ナルモ 合

也 且 軍中ハ 魚類 ナキモ 人ナラ 採折ク

用テ 宜キ也 トシ 痲瘋 疾ハ 疾用 針藥

ナリ 疾ハ 疾用 針藥

小身之侍馬 同馬具 軍馬之 疾ハ 其良大人

一 若馬ニ 乘ヘカテ 疾ハ 疾

一 大 五才ヨリ 内ヲ 若馬ト云フ 五才ヨリ 上

一 馬ヲカニシヤウト云 若馬ハ 物ヲ夕

一 馬ヲカニシヤウト云 若馬ハ 物ヲ夕

一 馬ヲカニシヤウト云 若馬ハ 物ヲ夕

一 馬ヲカニシヤウト云 若馬ハ 物ヲ夕

一 大成馬ヲ不可用其身ニ相應ノ心得之要  
一 大成馬ハ棄下致シ難シユヘニ不可用  
一 小ト云凡三寸位ヲ善トス然凡其身大人  
十ヲハ大キ成モヨシトカク我分ヲハ  
力リテ身柄ニ相應スルヲ用ル心得肝  
要也戰場ニテ手ヲアセル馬ヲ棄物前  
十ト云テ馬ハカハルヲ引留ルハ見苦  
シキ也片午細線云自由ヲ十ハ半比在

馬ヲ可用也

一 才口シハ馬之要金アズテ用テヨシ  
一 才口シハ馬ハ鞍下テ以テ棄モノ也  
然ルニ六具ヲ堅メテハ常人如クハ棄  
難シ故ニ才口シハ馬ハ不可用也中氣  
一 才口シテ下ヨリ行馬ヲ可用也  
一 髮立ノ馬野髮ノ馬ヲ嫌フ要  
一 太刀折鎗合ナトスルニ支リテ悪シカ  
一 鬚リ髮ヲ用ユヘキ也

一 洞ノ長キ馬ハ川ヲ能ヲヨク短キハ山野

ヲ能歩タトイヘリ

馬ノ形ニ依テ其能ノ千カヒアルヲ

イヘリ

一 頭モ千中頭ヲ好トイヘリ

高キハ太刀打杯ニ宜シカラズ早キハ

乗ニクキ故ニ中頭ヲ用ル也

一 鞍鑿心得之事

鞍ハ作ヲ善トス常躰ノ鞍ハ當リ多ク

不冝然少常ノ鞍ヲ用トキヲ用

ルカヨシ鑿ハ金アツミヲ用テヨシハ

ラサル也然レ匹馬ノ強弱ニ因テコ口

クカケヲ用ユコ口クカケハ廻リヲカ

子ニメ中ヲ木ニシタル也

一 切付馬ハ夕カ皮野口塩午武功之事

切付ハ三枚切付ヨシ馬ハ夕ハ布晒ア

シハカニハ夕ヲ用テヨシカ皮ハハツ

ミニテ切ル丁アルモノ也故ニ小キ草

繩ヲカ皮ヲサス穴へ通シ鑿ノタカ頭  
へユヒ付置タルカヨシ野口ハ一文字  
ヨシ塩手ハ折又キヨシ丈夫也又キ通  
シハ切ル丁アリテアシ、  
一 三カヒノ事同クサリノ夏

三カヒハ面カヒ胸カヒ尻カヒノ三ツ  
也世ニ守山ト云糸折ヲ用ユへシ猩々  
緋羅紗十トヲ以テ拵タルハアシ、切  
ヤスキ也クサリトハ右ノ三カヒノ中

へクサリヲ余タルカヨキ也丈夫ニテ  
切ル下ナシ然レハ弱馬ニハ不可用馬  
ノ爲アシ、

一 手網之事同クロカ子ノ手網之夏  
手網ハ絹類ハアシ、晒布ヲ用ユへシ  
クロカ子ノ手網ハクサリヲミツ付ニ  
ツケ手ツ十ノ如クノ鞆ノ前輪ヘカケ  
置ヘシ自然敵ニ手網ヲキラレタル氏  
一 是ヲ用ユへキ爲也



一 アヲリノ夏

毛アヲリヲ用エ板アヲリハアシ、カ  
シノ馬ニ別テイムヘシシキ皮ニ用ル  
ニ寒中サムキモノ也

一 腹帯之夏

戰場ニテハ二重ハルヒヲ用ルユヘ常  
ヨリハ長クスヘシ草繩ヲ用ユハラヘ  
當ル処ハ草繩ヲ三四本并ヘテ組テ用  
ユヘシ又ハ常ノ通ニメ外ニ又筋カケ

一 取付之事

取付之事ハ市街中或ハヤ  
取付ハ左右有方体塩午又云左ヲ盛付  
ト云也是へ小細引ヲ付テ持ヘシ款ノ

首ヲ取タル片結付ル為也其外口相ノ  
アシキ片ワリ口ニ用ヒ或ハ馬ヲツナ  
キ置類ノ入用多キ也

一 三尺繩之夏

是ハ面力ヒ人ハツレ又為ニ用ユ繩ヲ

用ユ面シ丈夫ニテヨシ羅紗程々緋又

一 三類 切安クシテアシ、

一 馬也 益焚事人用事ナシ

一 板馬也 高ライ馬セシハ鞍上高

クテ宜シカラス

一 又カ袋ノ夏

一 布ヲ洗ニテ染テ拵ヘシ大カヨシ左右

一 又ヨ又ヒフオキ中ニ口ヲアケテヨシ又

一 力或ハ大豆スクモノ類ヲ入テ中ヲ結

一 七テ鞍ノ後輪へ付持テ或チテ馬ノ

一 鄭カレテ凡ル氏是ヲ喰ス也一法ニ中ヲ又

一 軍ヒ切リ左右ニ口ヲアケルモヨシト云

一 馬面馬鎧之事

一 皮ヲ以テ作ル面ニ鬼面龍面十トアリ

一 余リ矢炮ヲ防ク便リニハ十ヲス結句

一 味方ノ馬驚キテヨカラサレハ常好テ

一 ハ用ユヘカラス合戦ノ節敵ニ馬多キ

一 氏ハ味方ノ馬四五匹モ是ヲ用ユヘシ

敵ノ馬驚キ騷テ其備ウキ立モ人也

一 杏之事

杏ハワラヲ寒中ニ四五十日モサラシ  
其後シホ水ニツケヨク折テ作ルヘシ  
強クテ裏ヲ痛ニサルモノ也草ヲ入テ  
カク杯云コアレ氏裏ヲ痛テアシ、

一 軍馬之夏

腹帯之事

二 重腹帯ト云テ居木ノ左右ノ宛ヘ草

繩ニカキトクハタトヲ付テ通シツケ

右ノカキヲ緒ト左ノ廻テ左ノ執下カ

ケ左ノカキヲ緒ヲ右ニハシテ右ノ

丸ヘカキヲカケ置也又一傳ニ常ノ腹

帯ノ外ニ一筋切付ノ腹帯通ヘトヲシ

テ鞆ノ上ニテ堅ムヘシ是腹帯ノ延々

ル片立スカシテ乗十カラシムルニ自

由宜キ也且ハツミニテ一本切レテモ

今一本アル工ヘ鞆カヤルヲナシ

鞆堅ノ之事

打緒ヲ前輪ヨリ上帯へ通ズ右ノ端  
ヲ合セテ置ナリ又下方ニ後輪ヨリ右  
本細引ヲ出テ右ニ分ケテ右ヲ引ナリ  
セテ前へ取ル尤其緒ノ端ニ口ヲ設  
クヘシ又前輪ヨリ一本出シ是モ口カ  
ヲ端ニ設ケ右ノ口ヲ三ツ前ニテ重テ  
下ヨリ四寸ノ鞭ヲ付テ留ル也下ル  
片ハ立アカレハ右ノハ下へ又ケテ

手ヲカクルニ及スト久ル也総鞆堅

ハ鞆ノハナレ又為ナレハ手輕ヲヨシ

トス強ク堅ノタル片ハ落馬ノ片怪我

ヲスルモノナリ其上乗下ヲスル片六

カシクカタニ宜シカラス此鞆堅ノ

緒ハ其緒ヨシモツレスメヨキナリサ

テ此四寸ノハ千ハ鉄ニテ作ル長サ四

寸先ヲ夫ハツニノ中ニ腕貫ヲツクル

也乗スニイ或ハ立ハ子ナトスル片ス

ヘテクセ馬ニ用ユルモノ也鞍堅ノミ  
ニハ限ラヌ

芝繫之事

是ハ舎人ノ十キ氏馬ヲ廣野ニツ十キ  
置法也手網ヲ以前足ヲ結ヒテ置カヨ  
キ也又鐙ヲ取上テ面カヒヘ掛置モヨ  
シ

旅宿馬立ヤウ之事

旅宿ニ馬ヲ立置ニ其家ノ本柱ニツ十

カ又モノ也自然騷キラ其家ヲ損スル  
其アリ別ニ杭ヲ并テツキ置  
ヘシ又曰土ヲホリ其中ニ立置ヘシ寒  
中ニハアタニリリ暑中ハ涼シキ  
モノ也

今按スルニ馬ノ見立馬具軍馬之変其大  
梳ヲシルセル也其家其事ニ鍛練之人ニ  
可相尋タノ其只ヲアラハシ置者也  
是山麻子ノ詞也昼面ノ如シ

○小身之侍軍礼只々

小身ノ士軍中ニ取扱礼美ノ其アラシ  
シヲ出セリ大カヒ文面ノ如シ

一 陣中之礼法貴人ノ前ナリト云凡具足ヲ  
着テヒサニツクハ不可叶右ノ膝ヲ立  
テ左ノ膝ヲ可敷夏

・ 登面ノ如シ

一 頭ヲ大将へ御目ニカクル事ニ前段ニ出  
セリ

・ 軍礼ノ篇ニ出セリ

一 戦場ニテ馬上ヨリ大将へ物ヲ申事御左

ノ方へ乗向ヒ我カ射向ハ鏝ヲケハ大シ

手綱ヲ鞅ノ前輪ニ治ノ左右ノ子ヲ前輪

ニツキシコロヲ傾テ可申上也帰ル氏ハ

大将ノ馬ノ跡へ乗ミハシ大将ノ右ノ照

ヲ通ヘシ是押付ヲ見セニシキカタノ也

去ナカラ所ニヨリテ直ニ御左リヨリ帰

ルトモアル也戦場ニテハ下馬ヲノ御用

ヲ因テ却テ無礼ト云也ハ下馬ノ御用  
鎧ヲケハナシトハ文章ノアヤニテ畢  
竟フミタル鎧ヲハス、了也手綱ヲ治  
メテ手ヲツキテ一礼スレハ自然トシ  
コロハ傾ク也左ノ方ニカタムクヘシ  
押付ヲミセニシキトハ押付ヲミスル  
ハ武士ノ恥ル礼ナレハ也然レ氏大將  
右ノ方ツニリテ廻ラレサルハ直  
ニ左ヨリカヘル了モアリ此取ハ馬ヲ

右ノ方ヘ廻シタルカヨシ下馬ノ御用  
ニテ因テ無礼トスルハ馬上ノ士ハ何ソ  
大下知ヲナス人柄カスヘテ馬ニ乗ラテ  
叶ハサル役アルユヘニ馬上ニ居ル也  
然レハ大將ノ前トテ下馬ヲスルハ  
事ニノソシテヲクル、了アリ且御用  
ヲ因ニイカナル急用ヲ可被仰付了モ  
知サルニ下馬ヲナスハ夏ニユトリ  
アリテ不覺ヲ取了アリ故ニ下馬スル

ヲ却テ非礼ト定メタル也

一 兵具取扱之度 兵具取扱フニハ必ス柄

ニ手ヲ不可付ナリ兵具ヲ向置度カリソ

ノニモ北ノ方ニ向ヘカラサル也

● 戦場ニハ限ラス常モ此心得宜シ北ニ

向又ハ極陰也ニクルト訓ユヘイム

一 大将鑓着之度 大将ノ下ニ召モノヲ上

ニ着如クイタス度

● 是ハ大将ノ着替ノ鑓也 是ヲ勒ル人ハ

手廻ヲ勒ル力量武功ノ又ル人柄ノ假

也 大将ノ下ニ召モノヲ上ニ着スルハ

大将召玉フ氏上ヨリ取テ差上ルニ手

次便利也 且主人ノ身ニ付モノヲ我肌

ヘ付サル是礼也 カタミミ以テ故實ト

スル也

一 陣中飲酒之礼之事 作法常ノ如シ 給仕

ノ致シヤリ出陣ノ作法ニヒトシ

● 軍礼ノ篇ニ有之也 居立テ酌ヲ取シテ



ル足ヲフニ又也

一 母衣武者ヲ討タル敗軍礼之夏

一 母衣ヲ臺ニアクル事

一 母衣武者七午ノ懸ハスシノ事

一 陣中書礼只々之夏

右四ヶ条秘傳ニハ註釋ヲ除全吞不通

相スミ追而上下ニテ傳之

○小身之侍軍詞之事

都合何レモ文面久通り也軍中ニテハ

味方利運人詞ヲ用ルノ故実也款ニ制

和セラルル詞ヲイハス也此条何レモ其意

味アリ可心得

一 勅ヲ蒙リテ朝敵ヲ退治ニ行ラ節度使ト

云征伐凡追伐トモ追討凡号ス又云進彘

凡彘向凡云也

節度ノ名ハ唐ノ世ニ始レリ

一 公方管領之出陣アルヲ御動座ト云也

一 一夜陣ヲハ陣場ト云五日モ是アル知ラ

ハ陣知ト云ホ立テ行内ヲ陣中ト云家ニ  
陣ヲナスヲ宿陣ト云野ニ陣スルヲ野陣  
ト云

一 味方ノ馬ヲハイサムト云款ノ馬ヲハイ  
十、クト云

一 御馬イテ参レワレテ参レト云引テ参レ  
ト云ヘカラス

一 味方ノ手負ヲハイサタツカセ夕切セ夕  
ト云也尤討死イタセルヲ討死ヲトケ夕

ルト云也

トケタルトハ兼テ死ヲ期シタル心也

一 味方ノ人数ヲ引取ヲアクルト云也

一 味方ノ敗軍スルヲ公立ラレタルト云也

一 陣具尺木ノ類ヲハ取ト云ヘシ切ト云ヘ

カラス旗竿ヲハ切トハ云スホルト云也

一 款ノ人数ヲハ幾切ニ備タルト云味方ノ

ハ幾手ト云也

一 陣屋或ハ城ヨリ朝夕立烟ヲハ飯霞人氣

ト云也

一 款ノ地ヲ焼ヲ放火ト云味方ノ地ヲ焼ヲ

地焼ト云又ハ煙ヲ立ルト云也

一 我レ款ノ地味方ノ地ヲ焼收ノ下ナリ

一 陣カヘノ收我陣屋ヲ焼ヲ陣掃ト云也

一 我陣ヲヤクハ陣屋ノ射ヲミセマシキ

一 為ナリ

一 旗ノ午ヲオロスヲアクルト云也

一 常ハシホリテ置ナリ討テ出ルキシホ

一 少リヲオロス也是ヲアクルト云

一 貝ヲハ立ルト云関ノ声ヲハ作ルトモア

一 クル尺云也

一 世諺ニシヤクメツノ貝ヲ吹トイヘハ

一 吹ト云下ヲイムナリ

一 柵ヲハサクト云尺ハ付ルト云シヤクト

一 云尺ハフルト云

一 五六尺ナルヲサクト云二三尺ホト十

一 ルヲ尺ト云付ルフルハ長短ヲ分ツタ

ノナリ

一 大軍出合テ戦フヲ合戦ト云二年二年或

ハ足軽ニテセリ合ヲ小セリ合足軽合十

ト、云也

一 定レル備ノ外一年二年ニテ別処へ働ヲ

働ノ勢ト云也

一 一軍ト云ハ一万二千五百也小勢ヲ八軍

勢ト云ヘカラス年勢ト云ヘキ也

一 小返シモリ返シ搦返シ之事

一 引取片款追来ルニ二三騎ホト引返シ

働クヲ小返シト云一備ニ備返シ合テ

戦フヲ守返スト云款備ヲ乱メ追来ル

片搦人数引返スヲ搦返ト云也

一 城ヲ取囲ムヲマクト云人数ヲアクルヲ

ホクスト云

一 喰付喰留ル取クサル事

クヒ付トハ款ノ引取ニ追付ヲ云喰留

トハ款ヲアヒシラヒテ得引取サル如

クスルヲ云取クサルトハ取ムスニ戦  
ヲ云

一 寄口持口之事

一 款城ヲ取困シテ攻ル如ヲヨセ口ト云

城中扉裏虎口ヲ受取守ルヲ持口ト云

一 戦ノ場ヲ勳カサルヲ芝居ヲフマヘルト

云ナリ

一 戦ヲナシタル場ヲ退ナルト云ナリ

一 攻取タル城ヲ櫓扉ヲコホキスツルハ

クト云又城ヲ以ル兵云也

一 款ノ橋ヲハ引ト云味方ノ橋ヲハ引ト云

ト云也

一 陣ヲ取ヲ張ト云引ヲ拂ト云也

一 幕之詞ハ兵具ノ各ニ出之

右軍詞其卷其所ニ皆出之能心ヲ付テ可

考也

一 天官乍候ニ備ノシクラム厚キ薄キ中

ノニコリナト云詞ヲ出スカ如シ

○敵討之事

ケンクワ口論十トヲニ或ハ思ハサル  
難ニ逢テ利不尽ニ父兄ヲ人ニ殺サレ  
タル氏ハ子第トシテ是カ為ニ仇ヲ報  
スルヲ敵討ト云ナリ其大概ヲ論ス  
一 子口ヲ人ハ昼夜凡ニ心ニ掛ヘシ古人云  
父ノ仇ニハ共ニ天ヲイタ、カスト云リ  
寐食ヲ安クセス工夫ヲメタラシ手段ヲ  
ニフケテ全ク仇ヲ報スヘシ又云捨身ノ

報之事

親ヲ人ニ討レテハ其敵ヲ討仇ヲフク  
シ恐ヲ報セシ為ニ其敵ヲ付子口ヲ人  
ハ昼夜ノ境ナク心ニ掛ヘキ也古人ノ  
云ハ是曲礼ノ語也親ノ敵トハ天地ノ  
間ニ立テ其人ト凡ニ生ラ安ンメ同世  
界ニハ居ラレサルナリ是孝子ノ本心子  
第タル人ノ道ナレハ必ス不討メハ不  
叶ナリ也然レハ子ル敗モ安卧セス食ス

ル片モ味ヲ其ンセズ誠ニ食ヲ終ノ間  
モユ夫ヲナシ手段ヲ平シテ怪我ナ  
ク敵ヲ討ヲ、セ全ク報スル吟味ヲ十  
スヘシ敵モ其覚悟ヲナスモノナレハ  
我血氣ニ任セテ卒忽ノ働ヲナス片ハ  
敵ヲ得討ナルノミナラヌ却テトリユ  
ニ逢テ孝道ヲ失フヘシ故ニ右ノ通ニ  
夫ヲナス下也又若本意ヲ得トケスメ  
討死ヲナス片心ハ通スヘシ此ヲ捨身

ノ報ト云兔角ト敗節ヲ窺フ中自然互  
ノ中ニ此ヲ早クスル片ハ存念ヲ空ク  
スル道理ナレハ逢テ限りノ命ト定メ  
テ仇ヲ報スヘキ也

一 子ヲハル、人ハ用心ヲキヒシク致シ行  
路ニ敵ヲ見タリ片道ヲカヘ出合タリ片  
討レスノ退クヲ譽トスヘシ血氣ノ勇者  
ハ是ヲソシルトモ不可用  
是子口フ人ノ敵ト成人ノ覚悟也文面

ノ通り油断也ス身ヲ全フスルヲ譽ト  
スヘシ是本意ナリ勇氣ニカセテ刀  
ヘリ討トスルハ大キ成非也然ラ  
血氣ノ論ニ是ヲ臆病者トト、誹ルモ  
ノアリト一向ニ取上不可用如此ハ邪  
氣ノ甚キナリ

一 合戦也リ合ニ我カ親兄弟ヲ討レ戦散ノ  
後怨歎ノ思ヲ成僻妄也歎味方トニ主恩  
ノ為ニ働運尽テ討ルニ何ノ恨カアラ

ン去ニ依テ能武者ヲ討テハ死骸ヲ送り  
供養ヲナスハ勇士ノ本意也然ルニ報謝  
ノ心ナリ却テ恨ミヲ思フハ邪美ノツヨ  
ミナリ

河越太郎重頼江戸太郎重長参上長井渡  
此輩討三浦久美明者也而美澄以下子息  
門葉多以候御供重長等者雖奉射源家不  
被抽賞有勢之輩者難成欣存忠直者更  
不可貽憤之旨被仰會三浦一黨彼等申無



異心之趣仍各互ニ合眼列坐者也

是東鑑ニミヘ夕リ引テ以テ怒ヲ残ク

サルノ道理ヲ明ニス江戸河越ハ平家

ニ属シ頼朝美兵ノ始衣笠ノ城ヘ押ヨ

セテ三浦ハ美明ヲ討シ也其後頼朝ニ

帰服シ長井ノ渡迄来リシ十リ美澄ハ

美明カ子也

○放討之事

・戦国ノ敗我カ勇カヲ拭ニ為ニ可殺ノ

科人ヲル氏廣庭十ト呼出シ働カセ

テ討テ了リ是ヲ放討ト云又下草科

人アリテ己カ家カ又ハ山林十トハ取

籠テ居ルヲ押込テ取テ放討ト云也此

丸ニハ取籠リ者ヲ取テ云

一科人ヲル敗ニ即敗ニ押込スメ科人幾人

何道具ヲ持何方ニ有之ト云テヲ尋向テ

聞定押込テ是本意也血氣ノ勇ヲナスヘ

カラサル事

一 放討ノ氏科人切テ出タルニ最前切結  
タル人午柄也

科人屋布内カ象ノ内ヨリカスヘテ外  
へ切テ出タル片ハ一番ニカケ合切結  
フ片眼ヨリカ後口カラニテモ人來テ  
是ヲ討タリ氏午柄ハ最前ニ切結ヒタ  
ル人カ第一也故ハ後ニ來ル人ハ切ヨ  
シタトヒ其者ヲ仕留テモ款ハ草卧タ  
ル如クシハ討ヨキ道理也然レ氏初ノ

人シホヲモ付ス夕後ノ人ニ渡レテ其  
場ヲ退キタル片ハ是大キ成不覺ナリ  
能ク勘弁スヘシ

一 科人足早ニ退行ヲ不折留ヲシカル人ア  
リ足早ニ退テ追付レスンハイカ、セニ  
ヤ又午疵ヲ負ナリ是ヲ誅ルモ不穿鑿  
ナリ

科人勝負ヲ十サスノ退ハイカ成者モ  
討留ルナ成マシキモノ也タトヘ小者

中間ニテモカヲ取テ必死ニ働ヲ十サ  
ハ敗ノ運ニヨリテハ疵ヲ蒙ルナ有ク  
シキモノニモ非ス此等ヲ緋ルハ不案  
内ノ論ナリ不穿鑿ノナ也右ノ通トテ  
不覺越度トハ云ヘカラス  
一 弓鉄炮所持シテ取籠タル科人之変  
取ヘキ人ハ戸口ヘヨリ立サテアラヌ  
方ヘ人ヲ廻シ壁ヲコホキタヲシ其方  
ヲ打破テ入ル勢ヒヲ十サシムサスレ

一 内ニ居ル其方ニ心ヲ付テ右ノ戸口ノ  
方ハ後ニナシテ居ルモノ也其取戸ヲ  
ト、コホリナクサラリトアケテ速ニ  
飛入テ取也

一 戸入之事  
羽織ヲ又キ刀ノ鞘へ両袖ヲ通ノ尻ノ  
手ニ持向フヘサシ出楯ニメ右ニ抜刀  
ヲ持テ入ル也サテ戸入ノ習ヒハ向ヨ  
リ一柏子ニ飛入ヘシ思惟ヲ加レハ疑

亡クミノ心起リテ取ニ夕キモノ也  
且士ノ取籠リタルハ間ヲハストイ  
ヨク心死ノ分別ヲ極ル者ナレハ間  
ヲ延カス速ニ取心得宜シ下昂十トノ  
取籠リタルハ取ニヨリテ猶豫スル丁  
モアルハ小者ハ間ヲ延ス氏ハ助リ  
度ト思フ心出来テ取ヨキモノ也此類  
心ヲ付ヘシテ取ハテ其心也

一 夜ノ取籠リ者ヲハ投續松ヲ投入テ見ヘ

シ尤曉ニ成テ取入事ヲ用ユ

内ニ火ヲ投込氏ハ内アカク内ヨリハ  
外ミヘ又モノ也然レハ取手ノ方ニハ  
火ヲ置ヘカラス曉ニ成テ取ハ夜ノ内  
ハ捕手何ヨリカ来ルト心ヲ配リテ守  
ルユヘ曉ニ至リテハ心氣夕ユミ勞レ  
テ極陰ニナレハ自然ト眠リヲ催シ守  
ニ怠ルモノユヘ取安キモノ也

一 大隻ノ取籠者ハ鉄炮ニテ拵丁アリ當座

ハ死テ頓テ生ズル心得ノ事

生取ニメ同類十トヲ尋問十トノヤウ

ノ者必生挿ニセス、メ不叶科人ノ下也

如此者ヲハ鉄炮ヲ用テ取ヘシ薬ヲ強

クシ紙玉ヲ用テ打片ハ動メ一通リハ

必絶死ヲスルモノ也然レ元ヨリ紙

玉十レハ折合トヤカテヨミカヘルモ

内十リ

内十リ

内十リ

内十リ

内十リ

内十リ

内十リ

内十リ

内十リ

内十リ

内十リ

内十リ

内十リ

内十リ

内十リ

内十リ

